

第38期事業報告書

平成16年4月1日から
平成17年3月31日まで

株式のご案内

決算期	3月31日
定時株主総会	6月に開催
同総会権利行使株主確定日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当金の支払を行うときは9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞 決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書は、当社ホームページ (http://www.consec.co.jp) に掲載しております。
名義書換代理人	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 UFJ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部 TEL0120-094-777 (通話料無料)
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店
単元未満株式の買取請求および買増請求	単元未満株式の買取請求および買増請求は、上記名義書換代理人事務取扱場所および取次所にて受付けております。 なお、株式会社証券保管振替機構をご利用されている場合は、お取引の証券会社にお申し出下さい。

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話 (通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪支店証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>



ホームページアドレス <http://www.consec.co.jp>

CONSEC 株式会社コンセック

時代のニーズに応える技術で 次世代の世界へ飛翔します。

CONTENTS

株主の皆様へ	1
グループ紹介	3
トピックス	4
連結財務情報	5
連結財務データ	7
単体財務情報	8
株式の状況	9
会社の概況	10

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、第38期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）の事業の概況につきましてご報告をかね、ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度における我が国の経済は、輸出関連産業やIT産業が堅調に推移した結果、国内生産や民間設備投資が増加し、総じて景気は回復の兆しを見せていましたが、後半には原油や素材の価格高騰等が次第に先行き不安をもたらしたことや、相次いだ大型台風等自然災害の影響によって景気の回復基調は減速し、一般個人消費は低調な動きとなりました。

当社グループが関連する土木・建設業界におきましても一部に民間設備投資の増加が見られたものの、建設材料価格の上昇や自然災害による商品不足等の影響を受け、工事の工程変更を余儀なくされる等、工事需要全体が低迷し、厳しい環境下に推移しました。

このような環境の中で当社グループと致しましては、需要の拡大が見込める建設リニューアル分野において、ダイヤモンドワイヤーによる切断解体技術をさらに前進させる「乾式工法システム」を考案し、新規需要を掘り起してまいりました。また、平成16年7月に株式会社サンライフを設立し、介護事業に進出し、営業を開始いたしました。さらに当社グループの相乗効果を生かした技術連携によって、造船・鉄鋼業界向け自動制御盤・配電盤等の売上が増加いたしました。しかしながら自然災害等により工事完工が遅れる等の影響を受けた特殊工事事業部門の売上減少を補うにはいたりませんでした。

この結果、当連結会計年度の売上高は91億67百万円と前期比29百万円（0.3%）減のほぼ横ばいとなりました。

事業部門別の売上高の概況は次のとおりとなっております。

「切削機具事業」

切削関連機具の売上はほぼ横ばいで推移しましたが、価格競争の激しいブレード・ビット等の消耗品の売上は減少し、事業部門全体としては前期比1億15百万円（3.2%）減の34億70百万円となりました。

「特殊工事事業」

新しい鉄鋼構造物解体分野での特殊工事の受注が増加したものの、大型台風等自然災害の影響により工事完工の遅れ等があり、前期比2億54百万円（18.4%）減の11億27百万円となりました。

「建設・生活関連品事業」

災害復旧商品や防災商品等の需要が増加したことや、急激な価格上昇による材料不足を懸念した発注等により建設資材の売上が増加し、前期比1億16百万円（3.0%）増の39億44百万円となりました。

「その他の事業」

連結子法人等において、鉄鋼・造船業界向けの自動制御盤、配電盤等の売上がのびたことと、新規介護事業が順調に軌道に乗り、前期比2億24百万円（55.7%）増の6億26百万円となりました。

一方損益面におきましては、利益率の高い自社製品の拡販強化を図ると共に、海外生産シフトによる製品コストダウンを推進し、一般管理費等営業費用の削減に努めた結果、営業利益は前期比80百万円（70.1%）増の1億94百万円、経常利益は前期比18百万円（8.3%）増の2億31百万円となりましたが、当期純利益は繰延税金資産の影響等により前期比37百万円（42.1%）減の51百万円となりました。

今後の我が国経済は企業収益の改善や、民間設備投資の回復など景気は緩やかに回復基調を保つものと思われませんが、原油価格動向や、米国・中国の経済動向等先行き不透明な懸念材料がある中、国内においても高齢化問

題、雇用情勢など社会環境は依然として厳しく、予断を許さない状況が続くと思われま。

このような環境の中で、当社グループが対処すべき課題は、顧客満足度を高める営業力、組織力の強化、社会環境の変化ニーズを捉えた新製品の開発、海外生産を含めたコストダウンによる利益効率の改善、および固定費削減による収益体質の強化を図ることです。

そのため中期課題としては、平成16年6月に中国江蘇省南通市に設立しました、南通康賽克工程工具有限公司の技術力等の向上を図り、中国やヨーロッパ等世界市場への販売を強化してまいります。

また、引き続き増大する構造物の解体リニューアル分野においてはダイヤモンドワイヤーによる切断工法の技術開発を一層高め、橋梁や鉄鋼構造物切断工法の業界への認知度を高め、新たな需要の獲得に努め、工事受注および製品の拡販を強化してまいります。

さらに、当社グループの連携を強化し、新製品開発、新規事業の構築に総力をあげると同時に管理部門においては、より一層の合理化と営業費用の圧縮を進め、効率経営に徹し当社グループの価値を高め、発展に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

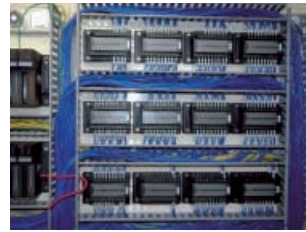
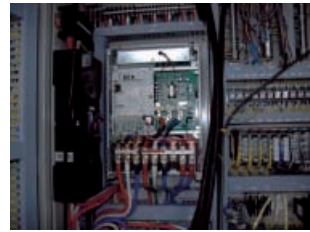
平成17年6月



代表取締役社長

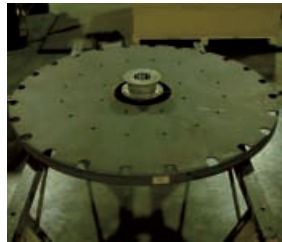
佐々木 孝隆

北斗電気工業株式会社



大型運搬機器や汎用ボイラなど、機械装置の頭脳ともいえる制御盤のシステム構築を中心に、幅広い分野で独自の発想と卓越したノウハウで時代のハイテク技術にお応えしております。

株式会社サン・ホクト



各種製缶・板金・自動制御盤・配電盤等箱体の製作およびパンチングマシンによる精密板金加工を行っております。

南通康賽克工程工具有限公司



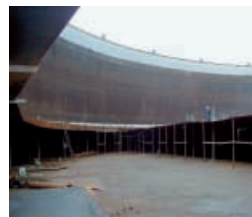
平成16年6月に中国・江蘇省南通市にダイヤモンド切削機具生産の子会社を設立を行いました。南通市の工業団地内に工場は、2階建・一部3階の延床面積約2,700㎡にてダイヤモンド切削機具の主力商品でありますコアドリルの生産・販売を行っております。

株式会社サンライフ



「明るく」「笑顔で」「朗らかに」をモットーに、介護サービスを提供しています。利用者の方々に、入浴・食事・レクリエーション・機能訓練などの「通所介護（デイサービス）」や利用者の介護計画の作成およびサービス提供事業者との連絡調整の「居宅介護支援（ケアプランサービス）」を行っております。

祥建企業股份有限公司



台湾における当社製品の卸売や特殊工事のアドバイザー業務や、機械部品等の輸出入業務や原油タンクの補修工事・防煙ガラスの据付工事等を行っております。

乾式ワイヤーソーイングシステム

新工法・当社オリジナル乾式ワイヤーソーイングシステムは鉄筋コンクリート構造物を従来の湿式工法と同様の切削スピードで、切削汚水の発生を抑えて切断する新工法です。

乾式工法は従来の二法と比べ、切削泥水が発生しないため、現場の大規模な養生、切削泥水の処理が不要になり、地球環境を考えた環境にもやさしい工法です。また、お客様にも前準備、後処理等の時間等が短縮され大変喜ばれております。（右の写真は、乾式ワイヤーソーによる施工風景です。）



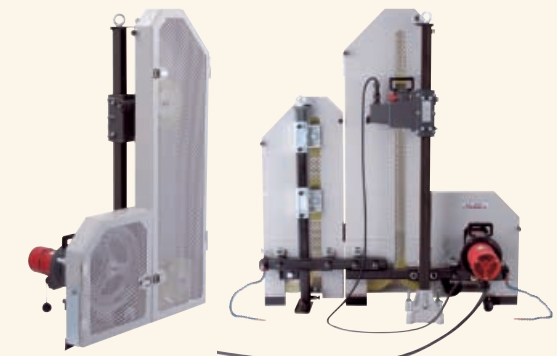
乾式ワイヤーソー 福岡県筑後市施工風景

電動ワイヤーソー DSX-10A

当社の主力商品でありますコンクリート構造物の切断に欠かせないワイヤーソーの新型機種として、本年2月にDSX-10A型を発売いたしました。

主な特長としましては、従来小型の機種は油圧タイプが主流でしたが、お客様の要望により開発を行い、さらに小型化・軽量化が可能になり、より狭い現場での作業が可能となりました。

心臓部に超強力モータを搭載し、この電動ワイヤーソー用に新開発した専用ダイヤモンドワイヤーを採用することにより油圧モータに比べて小さなパワーで十分な切断能力を発揮いたします。



電動ワイヤーソー DSX-10A

連結貸借対照表

科 目	当期		前期	
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
資産の部				
流動資産	5,500	4,696	3,641	3,339
現金及び預金	624	699	2,238	2,208
受取手形及び売掛金等	2,832	2,308	1,191	904
有価証券	122	87	57	32
たな卸資産	1,449	1,411	32	35
繰延税金資産	303	20	123	159
その他	182	180	618	716
貸倒引当金	△ 12	△ 9	長期借入金	362
固定資産	7,311	7,834	退職給付引当金	191
有形固定資産	6,444	6,506	役員退職慰労引当金	23
建物及び構築物	1,996	2,034	連結調整勘定	5
土地	4,289	4,289	その他	37
その他	159	183	負債合計	4,259
無形固定資産	56	30	少数株主持分	35
投資その他の資産	811	1,298	資本の部	
投資有価証券	422	383	資本金	4,090
更生債権等	88	158	資本剰余金	4,352
繰延税金資産	208	702	利益剰余金	168
その他	199	225	株式等評価差額金	△ 41
貸倒引当金	△ 105	△ 170	為替換算調整勘定	△ 5
			自己株式	△ 47
資産合計	12,811	12,530	資本合計	8,516
			負債、少数株主持分及び資本合計	12,811

(注) 百万円未満の金額は、四捨五入で表示しております。また、合計金額は必ずしも一致しません。

連結損益計算書

科 目	当期		前期	
	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
売上高	9,167	9,196		
売上原価	7,096	7,091		
販売費及び一般管理費	1,877	1,992		
営業利益	194	114		
営業外収益	78	139		
営業外費用	41	40		
経常利益	231	214		
特別利益	101	20		
特別損失	33	10		
税金等調整前当期純利益	299	224		
法人税、住民税及び事業税	35	32		
法人税等調整額	211	100		
少数株主利益	1	3		
当期純利益	51	89		

(注) 百万円未満の金額は、四捨五入で表示しております。また、合計金額は必ずしも一致しません。

連結剰余金計算書

科 目	当期		前期	
	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
【資本剰余金の部】				
資本剰余金期首残高	4,352	4,352		
資本剰余金期末残高	4,352	4,352		
【利益剰余金の部】				
利益剰余金期首残高	145	74		
利益剰余金増加高	51	89		
利益剰余金減少高	27	18		
利益剰余金期末残高	168	145		

(注) 百万円未満の金額は、四捨五入で表示しております。また、合計金額は必ずしも一致しません。

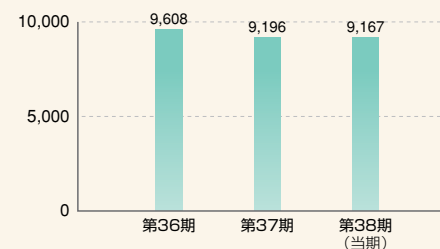
連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当期		前期	
	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 269	285		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 19	201		
財務活動によるキャッシュ・フロー	124	△ 184		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2	△ 2		
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	△ 166	300		
現金及び現金同等物の期首残高	753	453		
現金及び現金同等物の期末残高	586	753		

(注) 百万円未満の金額は、四捨五入で表示しております。また、合計金額は必ずしも一致しません。

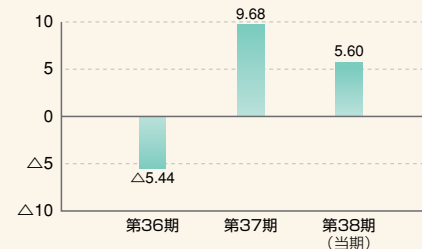
売上高

(単位:百万円)



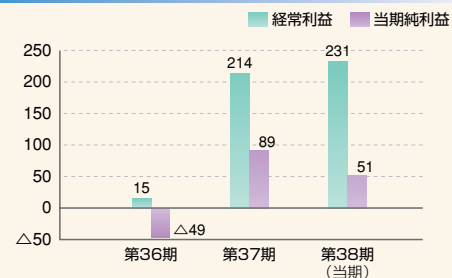
1株当たりの当期純利益

(単位:円)



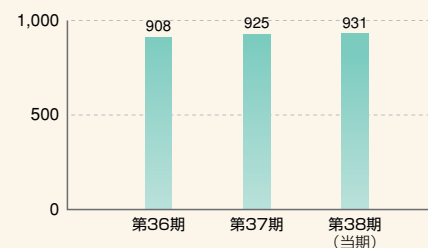
経常利益/当期純利益

(単位:百万円)



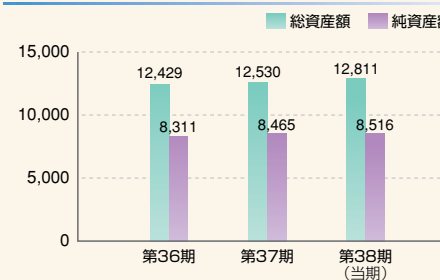
1株当たりの純資産

(単位:円)



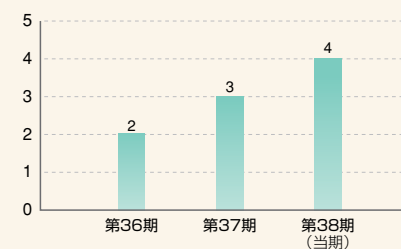
総資産額/純資産額

(単位:百万円)



1株当たりの配当金

(単位:円)



要約貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在		平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
資産の部			負債・資本の部		
流動資産	5,088	4,474	流動負債	3,325	3,156
固定資産	7,310	7,805	固定負債	516	615
有形固定資産	6,309	6,413	負債合計	3,841	3,771
無形固定資産	31	29	資本金	4,090	4,090
投資その他の資産	971	1,363	資本剰余金	4,352	4,352
			利益剰余金	204	181
			株式等評価差額金	△ 41	△ 70
			自己株式	△ 47	△ 46
			資本合計	8,558	8,508
資産合計	12,398	12,279	負債・資本合計	12,398	12,279

(注) 百万円未満の金額は、四捨五入で表示しております。また、合計金額は必ずしも一致しません。

要約損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	8,413	8,579
営業費用	8,241	8,484
営業利益	172	95
営業外損益の部		
営業外収益	76	134
営業外費用	25	35
経常利益	223	194
特別損益の部		
特別利益	101	20
特別損失	28	2
税引前当期純利益	296	212
法人税、住民税及び事業税	31	31
法人税等調整額	214	100
当期純利益	51	81
前期繰越利益	154	100
当期末処分利益	204	181

(注) 百万円未満の金額は、四捨五入で表示しております。また、合計金額は必ずしも一致しません。

利益処分

(単位:円)

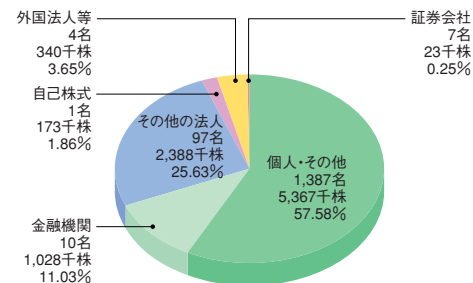
科目	当期
当期末処分利益の処分	
当期末処分利益	204,329,251
これを次のとおり処分いたしました。	
利益配当金	36,587,600
(1株につき4円)	
次期繰越利益	167,741,651
その他資本剰余金の処分	
その他資本剰余金	800,000,000
これを次のとおり処分いたしました。	
その他資本剰余金次期繰越高	800,000,000

会社が発行する株式の総数 14,300,000株
 発行済株式総数 9,320,056株
 株主数 1,505名
 大株主

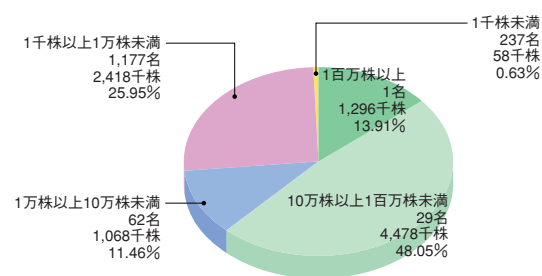
株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
日本鉱泉株式会社	1,296千株	14.3%
佐々木秀隆	452	5.0
コンセック従業員持株会	437	4.8
コメルツバンクサウスイーストアジアリミテッド	335	3.7
有限会社オカダ興産	322	3.5
株式会社損害保険ジャパン	217	2.4
株式会社もみじ銀行	171	1.8

(注) 当社は自己株式173,156株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

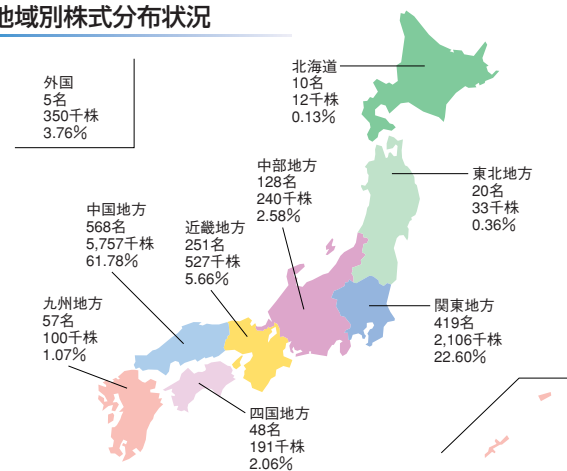
所有者別株式分布状況



所有株式数別株式分布状況



地域別株式分布状況



会社の概要

商号 株式会社 コンセック
 英文名 CONSEC CORPORATION
 設立 昭和42年11月6日
 資本金 40億90百万円
 従業員数 246名
 ホームページ <http://www.consec.co.jp>
 連結子会社 祥建企業股份有限公司(台湾・台北市)
 北斗電気工業株式会社(広島県呉市)
 株式会社サン・ホクト(広島県呉市)
 南通康賽克工程工具有限公司(中国・江蘇省南通市)
 株式会社サンライフ(広島市西区)

主な事業内容 当社はつぎの物品の製造および仕入販売、コンクリート特殊工事ならびに不動産施設の賃貸等を行っています。

〔切削機具事業〕
 穿孔・切断機器、ダイヤモンド切削消耗品
 特注機、切削関連機具等

〔特殊工事業〕
 アンカー工事、コアボーリング・カッター工事、ワイヤーソー工事、ジベル工事等

〔建設・生活関連品事業〕
 建設機械・工具、建設資材、住宅・OA機器
 生活関連機器等、不動産施設賃貸

〔その他の事業〕
 自動制御盤、配電盤、製缶、
 精密板金加工、介護事業等

ネットワーク

本社 広島市西区商工センター四丁目6番8号
 TEL(082)277-5451
 支店 東京、大阪
 営業所 札幌、仙台、横浜、名古屋、岡山、広島、高松、福岡、キャドム店他21ヶ所
 工場 広島工場
 物流センター 広島配送センター

役員

代表取締役社長 佐々木 秀 隆
 取締役 千 田 稔
 取締役 岡 田 真 一
 取締役 福 田 多喜二
 取締役 木 曾 真理行
 常勤監査役 吉 本 文 雄
 監査役 加 藤 公 敏
 監査役 中 元 正 彦